

Core2Core 出張報告書

[出張者]

片岡 孝介

先進理工学研究科 生命医科学専攻

朝日研究室 博士後期課程1年

[訪問先]

Life and Medical Science Institute (Limes)、ボン、ドイツ

[出張期間]

2016年11月3日(火)～2016年11月27日(日)

2016年11月3日成田空港発、韓国仁川空港経由、同日ドイツフランクフルト空港着

2016年11月26日フランクフルト空港発、韓国仁川空港経由、翌日27日成田空港着

[出張内容]

本出張ではドイツ・ボン大学の研究機関 Limes に訪問し、Michael Hoch 教授の研究室にて研究活動を行った。

11月4日(水)は、ラボマネージャーである Bauer Reinheld 博士から Limes において実験する際の注意事項等の説明を受けた。その後、研究室のメンバーが全員参加する Lab seminar に参加して博士学生である Mariangela Sociale 氏の進捗報告を聴いた。同時に、朝日研究室に所属し約2年間もの間 Michael Hoch 研究室にて共同研究を行っていた若林慧氏にメンバー全員への出張者の紹介を行っていただいた。

11月7日(月)～11月25日(金)の平日は若林慧氏や、Michael Hoch 研究室に所属する Melanie Thielisch 氏の研究指導を受けながら研究活動を行っていた。若林慧氏からは共免疫沈降実験を含む生化学的な実験の指導を受け、テクニシヤンの Melanie Thielisch 氏からは Drosophila Melanogaster 培養細胞 S2 の培養方法や遺伝子導入実験などの手ほどきを受けた。

[総括]

今回の出張では、分子生物学・細胞生物学等の分野において最先端の研究を行っている研究室に所属する研究者とディスカッションできた点、研究環境を見学できた点などで非常に有意義な出張であった。

Michael Hoch 研究室の研究体制は、現在自分が所属する日本の研究室とはまるで異なっていた。**Michael Hoch** 研究室では教授と教授秘書が存在する点では日本と似ているが、実験設備が豊富に揃っている点のみならず、それぞれの分野に特化したテクニシャンや博士研究員が多く所属していた。そのため研究活動を行っている間に生じた疑問等はその分野を得意とする人物と議論すれば済み、自らがインターネット等を駆使して文献を調査する以上の情報を得ることが出来た。事実、研究指導を受けていた **Melanie Thielisch** 氏からは培養細胞 **S2** について多くのことを学ぶことができた。以上のような、研究室の中で研究分野を広くカバーする研究体制のおかげで、世界最先端の研究を行うことができているのではないかと感じた。

また今回の出張で特筆すべき体験は研究活動だけではない。同大学の **Andreas Zimmer** 研究室にて博士研究員として所属している野崎千尋博士には、出張期間中に2回もお話をする機会を設けていただいた。その中で同博士がどのように研究者として生きてきたかなど大変貴重な話をいただいた。この体験は、これからの自らのキャリアの築き方や仕事の進め方などの重要な指針になるであろうと確信している。また、**Michael Hoch** 研究室の博士学生たちとの交流も忘れてはならない。中でも印象的な交流は **Paul Kern** 氏、**Marie Paradis** 氏、**Julia Sellin** 博士、**Mariangela Sociale** 氏と研究室のクリスマスパーティーで披露するパロディ動画の撮影を一緒に行ったことである。この繋がりは将来キャリアを築いていく上で重要なものになると信じている。

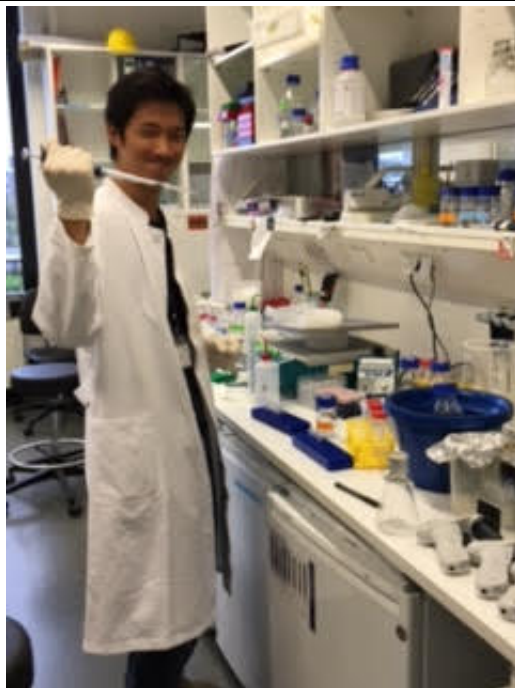
以上より、今回の出張は研究の面のみならず将来のキャリアプランの構築という意味でも非常に大きな意味を持つ出張であった。今後も出張で出会った人々との継続的な関係を築き、日独の共同研究の架け橋となるべく邁進していきたい。



Michael Hoch 研究室の居室の様子と
朝日研博士学生若林慧氏



培養細胞室



生化学実験を行う出張者



Michael Hoch 研究室のメンバーと共に
クリスマスパーティのパロディ動画
を撮影している様子